

令和5年度 中央区立日本橋小学校 外部評価報告書

外部評価委員： 今江嘉利、多賀谷里沙、野崎 剛、小森優子、村上勇人、藤木牧子、東 純生、
竹田津敬子、岩上佳夫 ※敬称略

報告書作成者： 神山安弘

評価時期 令和6年3月

1 重点目標の評価

重点目標1「分かる授業を追求する（楽しい学校）」について

評価指標①「児童は主体的に学習を行い、考える力を育てているか。」は、保護者の84%が「十分達成している」「達成している」の評価である。児童アンケート「重点目標1」「進んで学習に取り組んでいますか」は、91%が「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答しており、児童が主体的に取組み考える力を育てる授業を実践した成果である。評価指標②「児童は基礎的・基本的な学力を身に付け、『できた』『わかった』という充実感を感じているか。」は、保護者の86%が「十分達成している」「達成している」の評価である。児童アンケート「全体の評価」設問1「授業の内容はよくわかりますか。」は、97%が「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答している。学校が「教員の指導力の向上」と「安定した学級経営」に向け尽力してきた結果である。また、全国小学校社会科研究協議会「全国研究大会会場校」として、授業で児童の主体的な学びの姿を参観していただきたいとの校長の強い意志が教職員の授業改善につながったといえる。

重点目標2「授業規律・生活規律を徹底する（規律ある学校）」について

評価指標①「全ての児童が、ルールやきまりを理解し、自分たちで進んで守ろうとしているか。」は、保護者の73%が「十分達成している」「達成している」の評価だが、児童アンケート「全体の評価」設問7「学校の約束を守っていますか。」は、92%が「よくあてはまる」「まああてはまる」と回答し評価に乖離がある。保護者の設問内容の理解や児童の実態把握について分析・検討し実態を明らかにすることが大切である。評価指標②「教職員は児童の人権を尊重している」、評価指標③「人権教育や道徳の授業」は、ともに高い評価を得ている。教職員が「規律ある学校」を目指し、児童一人一人の人権を尊重する教育を実践するとともに児童が互いに他者を尊重し学び合う実践のなかで、授業規律や生活規律を徹底する教育活動を意図的・計画的・組織的に取り組んできた成果である。

重点目標3「新しい校風を創造する（愛される学校）」について

評価指標①「児童一人一人に学校の一員、地域の一員としての意識を高め、歴史と伝統ある学校・地域への愛情を深めているか。」は、保護者の93%が「十分達成している」「達成している」の評価である。児童アンケート重点目標3「日本橋小学校や地域のことが好きですか。」の設問で児童の95%が「よくあてはまる」「まああてはまる」と評価している。学校が日本橋小学校の地域の歴史・文化・人材・産業などに着目し、地域と協働した教育活動を実践してきた成果である。評価指標②「日本橋小学校らしさ」93%、評価指標③「地域教材の開発と地域人材の活用」94%と、ともに高い評価を得ている。地域・保護者・児童に「愛される学校」を目指し、地域を歩き、そして地域に学び、地域の「ヒト」「モノ」「コト」と絆を深めてきた結果である。児童が地域への愛着が深まるよう地域の伝統や文化を学習に取り入れたり、児童の学校生活や成長の様子を積極的にホームページなどで発信したりした成果である。

2 今後の改善に向けた意見

○保護者アンケートにおいて、全ての項目において高い評価を得ていることから、今後とも継続しながら充実・深化を図ることを期待する。

○重点目標3「新しい校風を創造する」を展開するなかで、伝統の継承と新しい時代に求められる学校教育の創造を目指し、教育内容の吟味と地域との協働の在り方について検討を期待する。

3 その他の意見

○若手教員の増加や地域・保護者の学校への期待の多様化など、課題解決に向けた学校教育が求められている。本校は「楽しい学校」「規律ある学校」「愛される学校」を目指し力強く実践されており、管理職をはじめ教職員の尽力に心から感謝を申し上げる。